

高松平和病院ニュース

〒760-8530 高松市栗林町1-4-1 TEL.087(833)8113(代表) HPアドレス: <http://www.t-heiwa.com/>
発行責任者: 高松平和病院 院長 蓮井宏樹 編集: 広報委員会 発行年月日: 2018年1月1日



2018年 初春のご挨拶



高松平和病院
院長 蓮井宏樹

皆様 明けましておめでとうございます。
昨年では当院への温かいご支援、ご指導を賜りありがとうございました。
年頭に当たり、昨年1年間を振り返りつつ今年の抱負を述べさせていただきます。

4月には初期臨床研修医1名、後期研修医(内科)1名が入職し、研修をスタートしました。当院の臨床研修は特定の臓器や疾患領域の医学的な問題のみにターゲットを絞らず、社会的な側面(SDH: social determinants of health)も重視した全人的な医療を修練することを目標とし、総合診療や在宅医療、緩和ケアなど幅広く研修に取り入れています。中小病院としての利点を活かし、地域と生活に密着した医療を実践できる医師を育てる研修をこれからも進化させていきたいと考えています。

また、秋には経験を積んだ2名の内科医師が常勤医として入職しました。外来、入院、在宅、そして研修指導・教育と大きな力を発揮しています。内科医師体制が厚くなり、よりきめ細かく安全・安心な診療を心がけていきます。

施設・設備の面では最新のMRI装置、デジタルマンモグラフィーの導入を行いました。機器の性能、診断能の向上でより信頼できる医療の提供が可能となりました。

11月26日には平和病院エリアの健康祭りをこどもクリニックやへいわ歯科、そして老健虹の里等の事業所と力を合わせて開催しました。多くの方に参加して頂き、医療生協の取り組みを知っていただく機会となりました。

地域包括ケア構想の推進の中で中小病院の果たす

役割は変わってきています。当院では12月から地域包括ケア病床を8床から26床に増床しました。在宅療養支援を強化し、基幹病院や診療所との連携、在宅医療・介護との連携をさらに進めて、より多くの方に利用していただきたいと考えています。

この春は、診療報酬・介護報酬・障害者福祉サービスのトリプル改定です。その内容は厳しいものとなりました。政府は社会保障費の伸びを、2016年～2018年にかけて年度あたり5000億円ほどに抑える目安を決定し、16年度は薬代の見直しなどで1700億円、17年度は医療や介護の制度改革で1400億円削減しました。昨年未の予算調整で2018年度の社会保障費を少なくとも1300億円超削減するという方針が出され、診療報酬は本体部分のわずかな引き上げはあったものの、薬価を下げることを中心に全体では1%以上の引き下げとなりました。改定の内容は医療・介護従事者の労働・生活実態を反映したものとはとても言えません。医療機関にとっては存続が危うくなる事態が進行する恐れがあります。国民の自己負担増もさまざま検討されていますが、医療・介護から国民がますます遠ざけられる様なことがあってはいけません。

今年もわたしたちはいつでも、どこでも誰もが安心してかかる医療の実現を目指して、平和で安心して暮らせるまちづくり、健康づくりに貢献していきたいと考えています。ひきつづき地域の方々と協同して、憲法を守り社会保障の後退を許さない運動に取り組んでいきます。今年も皆様のご協力、ご支援のほどお願い申し上げます。

高松平和病院
理念

1. 患者の権利を守り常に信頼される医療を提供します。
2. 健康づくり、明るく安心して暮らせるまちづくりに貢献します。
3. 平和と医療、福祉を守ります。



へいわまつり開催



11月26日、高松平和病院の駐車場で「へいわまつり～いきいきすくすく健康まつり～」を開催しました。病院でのおまつりは10数年ぶりの開催です。病院周辺の5事業所(老健虹の里、生協



へいわ歯科、へいわこどもクリニック、栗林公園前薬局)で実行委員会を組織しました。紅葉が美しい紫雲山を背景に、来場者と要員合わせて450人の参加となりました。

来賓ご挨拶、迫力ある和太鼓のオープニング、かわいい子どもたちの演技、響く三味線の音色、餅つき、各種の美味しいバザー、盛り上がった抽選会と狭い

駐車場ながらもできることはあると感じました。

病室から患者さんが覗いてくれたり、降りて参加してくれました。

大きなトラブルもなくまずは成功です。職員も「いろんな職場の方々と協力しあってまつりを作るのはよかった」との感想でした。次回開催に向けて、課題を整理しながら準備したいと思います。



(へいわまつり実行委員会 事務局 末澤 理恵)

第24回看護介護活動研修 交流集会在開催されました



第24回看護介護活動研究交流集会在、11月23日に綾歌総合文化会館アイレックスにて、123名の法人内の看護師介護士ケアマネージャーが参加し開催されました。今年は、みき診療所より田中眞治医師も参加してくれました。

今年度は、「真の要求をかたちに
する看護介護の力を強めよう！」を
テーマに、21演題が発表されました。
在宅復帰支援・在宅生活の継続への

取り組みから学んだ事例、多職種との連携・協働により在宅での看取りを実現した事例など、私たちが日頃大切にしている寄り添う看護・介護の実践や患者様との関りから学んだ事例研究がたくさんありました。地域包括ケアが進められる中で私たちの役割や連携の大切さを再認識することができました。他にも業務改善的な研究などもあり、幅広い学びがありました。

記念講演では、昨年に引き続き鳥取大学大学院医学系研究科の竹田伸也先生に、「認知症ケアに活かす行動療法」についてご講演いただきました。行動療法は、行動の前後に注目して認知症の人の示す行動の意味を読み解く術です。先生のユーモアに加えて、身近な例を交えながらの講演で、楽しく分かりやすく学ぶことができました。人の「行動」について理解を深める機会になりました。

交流集会では、他の事業所の活動内容を知ることができ、お互いに学び合える有意義な1日となりました。
(学術委員会 樋笠麻理)



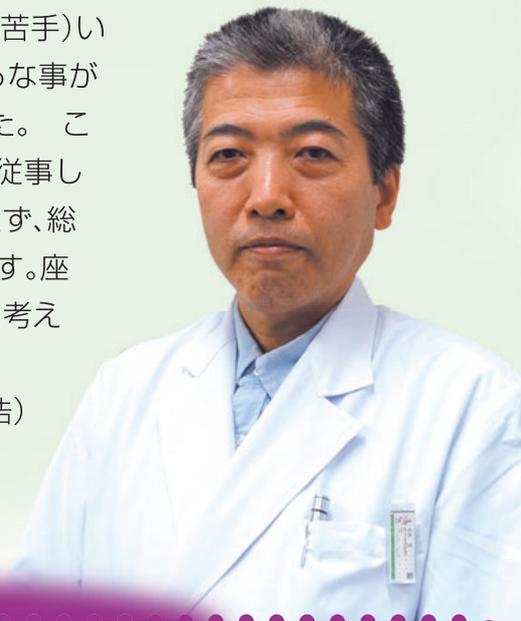
紹介します

本年10月から高松平和病院にお世話になっている、医師の中井浩(なかい ひろし)と申します。医師になって26年、50歳の大台をこえ、体力も低下傾向となってきました。

奈良県をかわきりに、東京都、岡山県、高知県、愛知県と西日本を中心に、医学修行の旅を行って参りました。(寒いのが苦手)いつ地元香川県に帰ろうか思案していたところ、いろいろな事が重なり、本年10月、ここ高松平和病院にたどり着きました。これまで、総合診療、救急医療、一般外科、医学教育などに従事してきました。専門がないのが売りです。今後も専門を持たず、総合診療医として、医学修行の旅を続けたいと考えています。座右の銘は、万年研修医です。一生学び続けることが大切と考えています。宜しく願い申し上げます。

(総合診療医 中井 浩)

故郷香川で
頑張ります!!
よろしくおねがい
します!!



職場紹介

乳腺外科

「11人に1人」日本女性が乳癌にかかる割合は驚くほど高く、女性の晩婚化・出産の高年齢化・食生活の欧米化などに伴い著しく増加傾向です。しかし早期に診断・治療することで克服できる病気でもあります。乳腺外科では女性乳腺専門医による診察を始め放射線技師、超音波検査技師など女性スタッフによる診療や検診を行っています。診断にあたっては、乳



癌の発見に有効な

マンモグラフィ検査や若い人の診断に役立つ超音波検査を組み合わせを行い、必要な場合に細胞診・組織診・MRI検査を行っています。女性の健康増進や検診率向上のために、より良い検診と診療を目指し

頑張っていく
ますので、宜
しく願いい
たします。

